

勝海舟（本宮三香）

貔貅蔽野錦旗東 幕府存亡繫此公
能與南洲肝膽照 開城事決立談中

貔貅 野を 蔽うて 錦旗 東す

解説 勝 海舟と西郷隆盛との江戸城無血開城の会談を詠った詩。

幕府の 存亡 此の 公に 繫る

語釈 ※貔貅||勇猛な将兵。官軍。 ※錦旗||錦の御旗。 ※繫||つなぐ。あるものとあるものとを結ぶこと。 ※肝胆||心の奥底。 真実の心。 ※開城||江戸城の無血開城。 ※立談中||立ち話のような時間。

能く 南洲と 肝胆 照らし

通釈 勇猛な将兵が野を蔽うが如く群がって、錦の旗をかざし江戸に向かった。江戸幕府の存亡は勝海舟の双肩にかかっていた。海舟は東征軍参謀長の

開城 事は 決す 立談の 中

西郷南洲と心の奥底で、意気投合し、江戸城の無血開城の大事を、難なく立ち話のような時間の間に決めてしまったのである。